



日時：2018年3月27日(火) 集合：京急富岡駅 10:00

コース：富岡駅→旧川合玉堂邸見学→経塚→富岡八幡宮→慶珊寺(孫文上陸の碑)→長昌寺(七福神・布袋尊)  
→ベイサイドマリーナ→富岡総合公園→海洋研究開発機構・横浜研究所→JR新杉田駅

★長昌寺には直木三十五・柳沢耕治の墓があります。ベイサイドマリーナで自由時間をとります。

富岡公園の浜空神社あたりは桜の名所。海洋研究所で水中写真家中村征夫氏の深海の写真展を見学します。

参加者：平嶋L・勅使河原SL 含め29名(男性18名・女性11名)

班編成：第1班・丹後班長・佐藤よ・勅使河原・常盤・平石・熊坂・高橋文・伊藤真・小野里 9名  
第2班・木村班長・平嶋・志村・桑原・伊藤美・木村・青松秀・菊池・熊島・平野・小林 10名  
第3班・赤須班長・山田・永廣・赤須・仁井・高橋友・脇坂・岩元・古賀・松野 10名

世界的異常気象で、大雪が降った後は一気に春めいてきて、桜も例年より1週間早く開花し、今日も快晴で満開の桜に歓迎された最高のウォーキングでした。スタートの横浜市シテイ名勝「旧日本画家川合玉堂別邸」は高台に有り、2人の案内説明人から海を眺めながら、埋め立て前の地形写真も見せて詳しく説明して戴きました。伊藤博文他著名人の別荘地とされた名勝地です。社寺、公園、そして埋め立て地に造られた広大な「ベイサイドマリーナ」富岡が近世から現代も素晴らしい所であることが良く判りました。湧き水池や川辺の満開桜と新緑の柳が良くかみ合う遊歩道、高級住宅地お庭のきれいな花を愛でながらの散策でした。

アフターも20名の参加で正しく花見を兼ね楽しく美味しく語り合いました。

平嶋さん地元とはいえ素晴らしいコース企画有難うございました。

【地図】平嶋Lから詳しい説明付き観光地図を戴きましたが、全体の位置関係を参考までに掲載しました。

- ① 富岡駅→②旧川合玉堂邸見学→③富岡八幡宮→④慶珊寺（孫文上陸の碑）→⑤長昌寺（七福神・布袋尊）  
→⑥ベイサイドマーリーナ→⑦富岡総合公園→⑧海洋研究開発機構・横浜研究所→⑨JR新杉田駅



【富岡駅】 急行は止まらない、上大岡から普通に乗り換え。9：36着 数名同乗。平嶋Lお迎え地図を戴く。



【旧川合玉堂邸見学】 平嶋L受付交渉中、入口で待つ。



大正・昭和を代表する近代日本画の大家。



川合玉堂

日本画の大家・川合玉堂の富岡の別荘です。（HPより）

2013.10.16未明焼失前の母屋

約2000坪の回遊式庭園をもち、その庭に古い黒松が2本あったために二松庵と名づけられました。この別邸は数寄屋造りで画室としての機能を備え、玉堂により大正6年ごろに新築されたもので、造園は地元の庭師「植周」が玉堂の意向を生かして作庭しました。玉堂は昭和10年ごろまで毎年、夏冬をここで過ごし、多くの作品を描きました。画家の他政治家を含め著名人の別荘地です。



茅葺表門



焼失後の主屋跡



説明案内人2人



表門前で総括説明後2班に分かれて案内説明



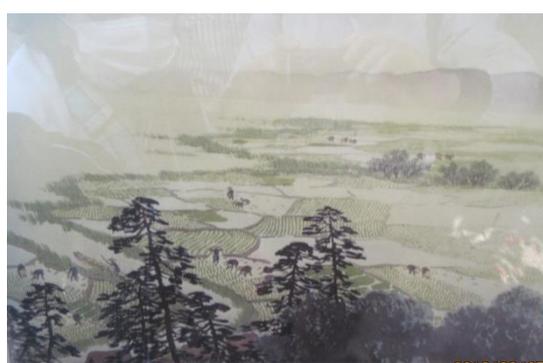
庭園の草木種類多く手入れが行き届いている



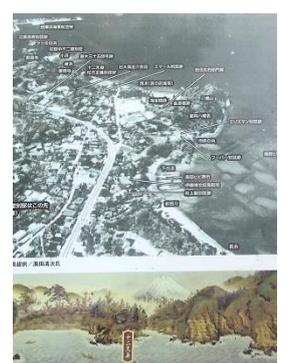
四阿(あずまや)跡から海が見える、今から行く鶴岡八幡宮。



ここからの風景画



埋め立て前の富岡写真と絵

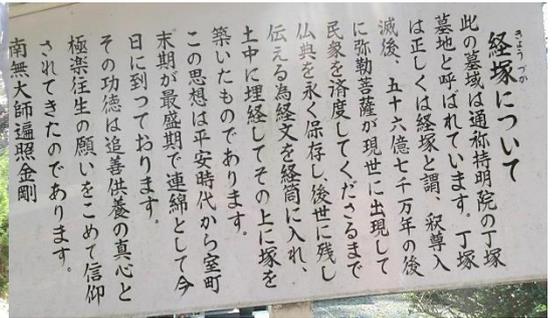


10:33 旧川合玉堂邸を後に再びこの石段を登ると、青空に映える緑の枝、そして京急沿線満開の桜が歓迎！



1本の木に紅白の梅

「経塚」



【富岡八幡宮】 11:00



建久年間 (1190年~1199年) 源頼朝が摂津国難波の蛭子神 (恵比寿神。西宮神社の末社のものと言われる。) を勧請して創建、安貞年間 (1227年~1229年) に八幡神が合祀されたという。八幡宮の山が応長の大津波から富岡地区を守ったことから「波除八幡」の別名を持つ。(HPより)

富岡八幡宮はKWCでも数回来ています。

11:14 神社下富岡八幡宮公園でトイレ休憩。

今日の参加者最年少古賀さん



木々も緑ついてきた遊歩道、先頭を歩く平嶋L快調な足取りです



「直木三十五文学碑」前を通る。 【慶珊寺】花翁山（かおうざん） 慶珊寺（けいさんじ）（真言宗御室派）



慶珊寺は1624年（寛永元年）、富岡1700石の旗本、豊島刑部明重が、両親の菩提を弔うために建立。両親の法名から、花翁山・慶珊寺とした。かつて豊島氏は太田道灌との戦いに敗れ没落したが、その子孫といわれる明重の父、頼重の戦功により、家康より富岡郷に領地を賜ったとされている。（HPより）



門前の右隣に、岸信介元首相揮毫の「孫文上陸記念碑」が解説と共に建てられていました。

【長昌寺】富岡山 濟宗建長寺派 布袋さんのお迎えです



柳下豊後守が亡妻の菩提のために創建し、寺号の長昌はその法名に由来しています。境内には豊嶋明重の母の墓があります。また、直木三十五の

墓と直木賞作家の胡桃沢耕史の墓も並んでいます。ほうそう（天然痘）除けの神様で知られる芋神様（楊柳観音）が祀られ、毎年3月「芋観音御開帳」の行事があり、「里芋の煮ころがし」が参詣者にふるまわれます。

以前体験済の寺で、入口布袋さんの御腹ナゼナゼする熟女さん、今更子供？お金がたまります様に？ P 5

「芋観音」

御本尊

**芋観世音縁起**

その昔、富岡の北にある鳥見塚に、豊かな水をたたえ一年中芋の葉が繁る一間四方の池がありました。いつの頃からか、この池の中に小さな観音様が現われるようになり、靈験あらたかことから、戦国時代末期、時の地頭や村人達によって池の近くに観音堂が建てられました。

この観音様は本来、人々から病苦を抜き去ってくださる恵み深い観音様で、お詣りすればいかなる願いごともかなえられ、また容貌を美しくして下さるともいわれまいました。

この由来から「芋観世音」または「芋神様」と尊称され人々から絶大の信仰を受けられるようになり、ご開帳日には近郷近在のみならず、江戸や相模の国からも子供を連れた参詣者で賑わったと古記録に記されています。

富岡山 長昌寺 芋観音堂

2018/03/27



「直木賞」で有名な「直木三十五墓所」

**直木三十五墓所**

直木三十五(本名 植村宗一)は、一八九二年(明治二十四年)大阪に生まれ、早稲田大学英文科を中退したのち、文芸評論・創作の道に入ると共に出版社や映画製作所なども興した。

一九三〇年に代表作『南国太平記』を発表し、時代小説の第一人者として、大衆文学を質的に高めた。作品は時代・歴史小説をはじめ現代・未来小説にまでおよぶ。この大衆文学における、輝かしい功績を記念して、没後一九三五年に、直木賞が設けられた。

直木の生涯には、貧窮の時代もあり、のち病をえて、療養のために空気のよい、温暖なここ富岡の浜辺に移り住んだが、一九三四年(昭和九年)若くして没した。

この墓は、はじめ富岡の慶珊寺にあったがのち長昌寺の墓地に移し、一九八二年九月、現在の場所に改葬された。直木の二人の愛児、木の実・昂生も共に眠っている。

2018/03/27



狛犬親子 (赤ちゃんがお乳を飲んでいますが、俺も飲みたい?)



芋観音堂を御守りして下さっている狛犬は一对。向かって右側は赤ちゃんが乳を飲んでいる珍しい狛犬。天保7年(1836年)、当山8世照道僧寛代に造立されました。奉納して頂いた方々のお名前を見ると鎌倉、日本橋など広域にわたっています。(HPより)

富岡総合公園のサイドを通り抜けて、湾岸道路、金沢シーサイドラインを潜り、横浜ベイサイドマリーナに向う。



【横浜ベイサイドマリーナ】



横浜ベイサイドマリーナ株式会社は横浜市やヤマハ発動機などの出資により、1993年11月10日に第三セクター方式で設立された。当施設は同社により1996年4月1日に開業され、6m-28mクラス用の1496区画の他、ビジターバスが約20隻分（10mクラス換算）あり、さらに給油施設やメンテナンス施設、船舶販売施設、ヤマハ発動機が運営するレンタルボート施設「マリンクラブ・シースタイル」などがあり、日本最大級の規模を誇るマリーナとして運営されている。金沢木材港跡地を利用。（HPより引用）

巻頭P1の集合写真はこの「クジラ噴水」を背景に伊藤も入り、居合わせた女性に撮って戴きました。

【昼食】クジラの噴水前広場 12:10～12:50 8,000歩 椅子とテーブル付で最高でした



湾の海辺に散歩してみる。ヨットハーバー 灯台 皆さん気になり振り返り見る、465万円也！



再び来た道に戻り、「富岡総合公園」に行き最後の「海洋研究開発機構・横浜研究所」へ向かいます。

「富岡総合公園」緑の芝生の上を歩く、最高のウォーキングです！



桜のトンネルを潜る 岩とせせらぎ歩道を歩く



草木のお花に歓迎されて気分爽快。花の名前は覚えられません！

熊坂花レポートを参照下さい



自然の湧き水池に錦鯉

セリを採っているおばあちゃん

こんな道もありましたよ



【富岡総合公園】 古くは海沿いの景勝地であった趣を残す公園。広場やアーチェリー場などもある。



平嶋L「伊藤さん、このこんもり盛り上がった小山で桜を背景に集合写真を撮りましょう！」「いいですね！」



シャボン玉で遊ぶ可愛い子供、孫を思い出して！ 港が見える丘へ来ました



展望の良い変わった  
岩山がある丘に来ま  
した。  
ここも初体験でした。

遠くに見える高層マンションの下がゴールJR新杉田駅



【海洋研究開発機構・横浜研究所】



模型



有人潜水調査船  
「しんかい 6500」

「しんかい6500」は、深度6,500mまで潜ることができる潜水調査船です。1989年に完成し、日本近海に限らず、太平洋、大西洋、インド洋等で、海底の地形や地質、深海生物などの調査を行い、2017年には通算1500回目の潜航を達成しています。現在運航中の大深度まで潜ることができる有人潜水調査船は、世界でも7隻しかありません。その中で「しんかい6500」は、日本のみならず世界の深海調査研究の中核を担う重要な役割を果たしています。

2 F 「水中写真家中村征夫写真展」を見る。写真撮影禁止

「チムニー」海底熱水鉱床の活動により生成される柱状の構造物。

水中写真家  
中村 征夫

深海へゆく  
～「しんかい6500」乗船の記録～



杉田川沿いを新杉田駅に向かう。

垂れ下がる桜の木に緑の若葉の木が引き立て役





14:40 熊坂さんによるクールダウン 平嶋L「今日の歩数はこの後新杉田駅まで約1,000歩ですので17,000歩 約12kmとします。アフターに行く方は残ってください。私が案内します」



今日最後のお見送りの花です有難う！



アフター「養老乃瀧」参加者は20名の大多数で、4テーブルに、8人、4人、4人、4人に着席、テーブル毎



に注文、15時開店直後は1人の男性係員で飲物、料理の注文、運びに大変でした。各席桜や沢山の花を見た後の楽しい「お花見会」で盛り上がっていました。

←新入会員初参加松野さん。

編集後記：今年は春が1週間ほど早いのではないのでしょうか？KWCも4月からお花見シリーズウォークですが散り始め？東京3月21日大雪、この雪の後急に好天気、気温も急上昇で桜もびっくり、刺激を受けパット花を咲かせたのでしょうか。高級別荘地の富岡、標高20~30mの丘からの眺めは最高でした。公園も自然と近代を良く調和させて、設計整備されております。アフターウォークも7割の参加とは小生参加したウォーキングで最高的人数でした。いつもの拙いボケ防止用日記帳「メモと写真」です。出来る丈ウォーキング状況を載せたつもりですが、どうしても歴史と地理を知りたく、HPからの引用が多くなりました。誤記や失礼な記述があるかもしれませんが悪しからずお許しの程。